

# 海外販路拡大に向けた総合化事業計画の策定

支援機関 愛媛6次産業化サポートセンター

支援内容 総合化事業計画策定支援

支援区分 6次産業化

## 合同会社 赤石の泉

### 事業者概要

農業生産法人 合同会社 赤石の泉

代表者名/佐藤 和洋

業 種/花き作農業、花・植木小売業、物品賃貸業

所 在 地/四国中央市土居町上野甲1525番地

資 本 金/3,000,000円

設 立/平成26年10月3日

従業員数/3名



赤石五葉松盆栽

## 支援に至る経緯

農業生産法人合同会社赤石の泉（以下、「赤石の泉」という）は、管理責任者である森高準一氏の家系が、先々代から赤石五葉松の生産者である。森高氏は平成20年にこの盆栽事業を引き継いだ。

平成26年赤石の泉設立に合わせ、森高氏が盆栽を譲渡し、以降赤石の泉が栽培している。盆栽圃場として土居町上野（13 a）、土居町北野金雅羅寺山（4 a）、土居町入野長命寺（8.24 a）を保有する。

赤石五葉松の盆栽は、古くから赤石連峰の愛媛県四国中央市土居町の特産物として安土桃山時代より400年以上の歴史を誇っている。しかし、近年、生産者の高齢化や後継者不足などで担い手が不足し、種植えから育てられた樹齢50年もの赤石五葉松約20万本が手入れをされないまま圃場に放置され、産地崩壊の危機にさらされている。

四国中央市土居町の特産物である赤石五葉松盆栽の再生を目指すため、愛媛6次産業化サポートセンターの畠中均企画推進員と共に総合化事業計画の事業計画策定を開始した。



## 支援内容

赤石の泉がある土居町の盆栽は、盆栽の産地として全国的に有名な香川県の鬼無地区を經由して出荷され、生産地として知名度が上がらない歯がゆい思いがあった。地域の盆栽市場は、業界特有の古いしきたりや商習慣からの脱却ができず、国内の市場が極限られた関係者の取引になっていた。

海外に目を向けるとEUおよびアジア近隣諸国市場では、盆栽が日本のものづくり人気により注目を浴び、海外向けのニーズが高まっていた。

このことから、新たな販路開拓に向けて、現状の事業の整理を行った。



### (1) 事業の整理

赤石五葉松、柑橘・野菜等の農産物の栽培、太陽光発電、土壌改良のための堆肥事業の着手が検討されたが、赤石の泉として軸となる事業が明確でなく、取組みの整理が必要であった。

### (2) 販路の見える化

赤石の泉の社員らを交え、付箋を使用したカードワークを行いながら、販路の洗い出しを実施した。建設業経験や地域で赤石五葉松の栽培を行ってきた経験から人脈を活用した販路開拓に有効性があると仮説ができた。

### (3) スケジュールの策定

10年間の全体を踏まえた事業計画から5年計画に絞り込み、販路の見える化を行い、実行プランが明確になった。ジェットロにアプローチし、海外バイヤーを土居町へ誘致、緑化施設管理事業者との連携で企業やホテルに盆栽のリース契約等が検討された。

## 支援の効果

平成27年5月から支援を開始し、「赤石五葉松盆栽の海外への販路拡大と新たな販売事業」の計画が、平成28年10月に総合化事業計画として認定を受けることができた。事業計画を策定する中で、営業先となる販路が明確になり、EUバイヤーとの取引開始や昨年10月に京都にオープンしたフォーシーズンズホテル京都にリース事業として盆栽を納入するに至った。



## 今後の展開

海外に目を向けた新しい市場の開拓と、地植え圃場に放置された赤石五葉松を中心に保護・確保を目的とした買取りを行い、付加価値のある販売方法や継続的に収益をあげる価値の創造（盆栽輸出のため検疫を通す技術等）が必要と考えている。



## 事業者の声

輸出市場の安定確保のため、海外で開催される盆栽イベント（BONSAIEUROPA出展）や日本文化イベントへの出展を通じて、バイヤーにアプローチしていきます。

文化庁文化交流使の経験がある平尾盆栽師の監修による「盆栽のマイスター制度」で、技術を習得した盆栽職人による盆栽メンテナンスを行う契約を実施し、土居町にマイスターを増やし地域に貢献できる産業を築きたいと思います。



代表社員 佐藤 和洋

## 支援者の声

土居町に愛着を抱く「赤石の泉」の総合化事業計画は、地域が高齢化に伴い盆栽産業が衰退してきたことを危惧し、特産品である赤石五葉松で地域の産業を復興させたいという強い想いを感じさせるものとなりました。

赤石の泉の皆さまの活気と行動力で、海外、国内販路の拡大とともに赤石五葉松が地域産業復興の礎となることを期待しております。

6次産業化プランナー  
関原 雅人